

ソフトウェア開発支援用SNSの提案

倉俣恵祐[†] 山田敬三[†] 田中充[†] 佐々木淳[†] 船生豊[†]岩手県立大学 ソフトウェア情報学部[†]

1. はじめに

近年, mixi[1]等の SNS (Social Networking Service) が注目されている. 著者らはこの SNS の機能に着目し, SNS を利用することでソフトウェア開発の支援を行うことができると考えられる. しかし, そのような案について実現された例はみあたらない. また, 現状の SNS ではソフトウェア開発支援に必要なドキュメントやノウハウといったコンテンツの管理機能等が不足している. 一方, コンテンツを管理する方法の一つとして CMS (Contents Management System) の導入が知られており, SNS の不足を補うことが期待できる. この観点から, 本稿ではソフトウェア開発支援に適した, CMS を組み込んだ新しい SNS の形態を提案する.

2. SNS のソフトウェア開発支援への適用

2.1 提案背景

SNS は, 「コミュニティ」や情報の閲覧を知らせる「足あと」, 「プロフィール」, 「友人の登録」等のコミュニケーションを支援する機能が豊富である. これらの機能はソフトウェア開発における情報の伝達や要求獲得等のコミュニケーション支援を行うことにも適していると考えられる.

2.2 CMS との連携

SNS を導入する際, 導入の手間を減らすため, OpenPNE などに代表される SNS エンジンを使用して SNS を構築する場合があるが, ソフトウェア開発を支援する場合, ドキュメントの作成と管理をサポートする機能や知識 (ドキュメントやノウハウ等) を効率よく蓄積する手段, 情報へ

A Proposal of Social Networking Service for Software Development Support.

Keisuke KURAMATA[†], Keizo YAMADA[†], Michiru TANAKA[†], Jun SASAKI[†], Yutaka FUNYU[†]

Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

152-52 Sugo, Takizawa, Iwate, 020-0193 Japan[†]

のアクセス権を決める機能等が不十分であるという問題がある.

そこで, 提案 SNS では, CMS を組み込むことでこの問題の解決を図る. 具体的には, Wiki に代表されるコンテンツ内容の編集, 削除を簡単に行える機能を組み込み, 必要に応じて改良を加えることで対応する. Wiki を利用することで発生する, ドキュメントの信頼性に関する問題は, 一定条件の下に承認された正規版ドキュメントを参照用に提供し, 編集用のドラフト版ドキュメントと存在を分けることで解決を図る.

これにより, コミュニケーション支援と知識の蓄積を効率良く行うことが可能となる. さらに次章で述べる機能と合わせることで, 現状のソフトウェア開発における以下のプロジェクト管理に関する問題も解決することができる.

- 開発メンバーの構成と役割が判りにくい.
- 開発メンバーのスキルが判りにくい.
- 開発で得たノウハウや問題点の蓄積と評価が判りにくい.

3. 提案 SNS の概要

3.1 コミュニティによるプロジェクト管理

提案 SNS では, プロジェクトを一つの単位とし, 開発者や顧客などのステークホルダー (stakeholder) をコミュニティで括ることで, プロジェクトに関する知識をプロジェクトコミュニティごとに管理する (図1).

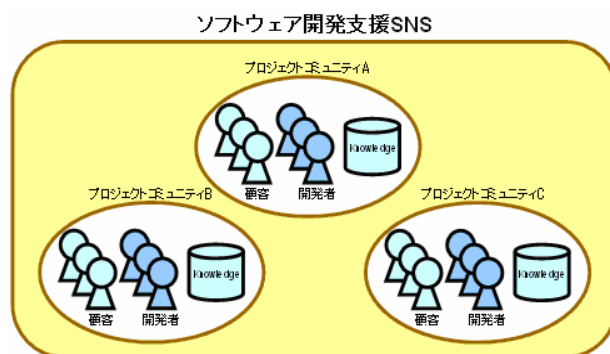


図1 ソフトウェア開発支援 SNS の構成

プロジェクトが立ち上がるごとに、コミュニティを作成し、プロジェクトに関わる情報の伝達は SNS を利用して行う。また、プロジェクトコミュニティに開発者以外の顧客等のステークホルダーも参加させることで要求獲得とコミュニケーション支援等も行うことが可能であり、同時に、開発者だけでは生まれない新たなノウハウが出てくる場となることが期待できる。

このように、提案 SNS では情報の伝達、ステークホルダーのコミュニケーション支援、知識の管理を支援することに重点を置いている。

3.2 属性によるステークホルダーの管理

参加するステークホルダーに「開発者」や「顧客」といった属性を付与することで、属性ごとに情報の配信を行うことができるため、関係の無い情報が配信され、情報氾濫が起きることを防ぐことが可能であり、同時にメーリングリストの利用は不要となる。

3.3 提案 SNS の機能

上記のニーズに対応することを狙いとした、提案 SNS の大まかな機能を以下に挙げる。

- ・ コミュニティ機能,
- ・ ステークホルダーの登録機能,
- ・ 知識管理機能,
- ・ メッセージ送受信機能,
- ・ プロフィール機能,
- ・ 足あと機能,
- ・ 日記 (備忘録) 機能.

プロフィール機能、足あと機能によってステークホルダーの属性管理やドキュメントのアクセス確認ができる。

4. 提案 SNS のメリット

4.1 人的ネットワークの生成

提案 SNS では、プロジェクトに関わるステークホルダーを 1 つのコミュニティに参加させることで、プロジェクトの人的ネットワークが可視化される。さらに、この人的ネットワークにおいて、SNS の機能の一つである「プロフィール情報」に個人の所持するスキル等が掲載されることで、誰がどんな知識を持っているのかという KnowWho 情報が伝達される。これにより、人的ネットワークから欲しい情報を探し出すことが容易となる。

4.2 情報伝達支援

提案 SNS を利用することで、プロジェクトの情報やステークホルダーに関する情報がトピックとして利用者に PUSH されるため、新しい情報の発生を知ることができる。

また、mixi 等の SNS には「足あと」と呼ばれる機能が存在するが、これは情報が正確に伝達されているか確認する手段として利用することが可能である。例えば、あるプロジェクトコミュニティにて周知させたい情報があるとき、コミュニティメンバーが Web ページを閲覧すれば、情報を閲覧したという証である「足あと」が自動的に残る。これにより、誰が情報を閲覧したか伝達状況を確認することができる。

4.3 知識管理

ソフトウェア開発プロジェクトでは開発者側の知識だけでなく、顧客側に関係するドメイン知識も必要となる。そのため、プロジェクトコミュニティに顧客と開発者等のステークホルダーと一緒に参加させることで新たなノウハウや知識の共有につながる。また、プロジェクトごとに知識を管理することで、情報の氾濫を防ぎ、プロジェクトに関係する情報を一元管理できる土壌を作り出すことができる。

このような知識管理を行うことで、過去のプロジェクトで蓄積されたノウハウを必要に応じて柔軟に活用することができ、将来のプロジェクトの支援にもつながる。

5. まとめ

本稿では、SNS の特性とソフトウェア開発支援への適用の際に起こるとされる問題点を指摘し、CMS と組み合わせるといった新しいソフトウェア開発支援用 SNS を提案した。

今後は上記新 SNS を構築し、実際のソフトウェア開発での利用実験を行っていく予定である。

参考文献

- [1]mixi, <http://mixi.jp/>.
- [2]黒瀬 邦夫: ナレッジマネジメントの SE 業務への適用, 情報処理, Vol.47, No.6, pp.656-651, 2006.
- [3]島津 秀雄, 小池 晋一: KM 再考: Web2.0 時代のナレッジマネジメント, 情報処理, Vol.47, No.7, pp.768-774, 2006.